

# EBPMモデル事業の構築・伴走支援 及びフォローアップについて

令和7年8月26日

知事戦略部 戦略企画課 総合計画・EBPM推進室

# 本日報告する内容

## 目次

1. 群馬県のご紹介
2. これまでのEBPMの取組と気付きについて
3. モデル事業・伴走支援事例のご紹介
4. 今後の展望について

# 1.群馬県のご紹介

A map of Japan with a callout box highlighting Gunma Prefecture. The callout box is a white rectangle with a dark blue border containing the text '群馬県'. The map shows the outline of Japan with a small inset of Gunma Prefecture in the center. The inset map shows the prefecture's internal divisions, with the western part shaded in dark blue and the rest in light blue.

**群馬県**

- **関東地方（北関東）**  
**東京から新幹線で49分**

# 1.群馬県のご紹介



# 2.群馬県のEBPM推進の状況について

## ① R4年度の状況

R4.7月 「群馬県庁 EBPM 推進方針」の策定

R5当初予算編成でのロジックモデル様式の試行開始

**E B P M**  
Evidence Based Policy Making

群馬県庁 EBPM推進方針  
エビデンスで変わるぐんまの政策

戦略企画課 総合計画・EBPM推進室

The graphic includes a pie chart, a bar chart, and an illustration of two people looking at a large screen displaying data.

### EBPM推進への3つの方針

12

県民幸福度向上に真に必要な政策展開

**方針① 政策プロセスのシステム化**

**方針② 環境整備**

**方針③ 人材育成**

判断基準・判断材料  
エビデンス

思考方法  
クリティカルシンキング  
ロジカルシンキング

知識  
データ分析  
データ活用

補完的關係

The diagram shows a flow from '方針①' to '方針②' and '方針③'. It also features a person at a laptop and a lightbulb icon.

## 2.群馬県のEBPM推進の状況について

### ② R5、6年度の状況

R5.4月～ 3つの取組方針に応じた取組を実施  
基盤サイト&モデル事業構築、職員研修を新規実施  
予算編成でのロジックモデル様式の活用は継続

「EBPM推進方針」(R4.7策定)において掲げた3つの取組方針に応じた取組を実施

政策プロセスのシステム化	環境整備	人材育成
① 予算編成でのロジックモデル等活用	② 基盤サイト ③ フォローアップ体制 ④ モデル事業構築	⑤ 職員研修

## 2.群馬県のEBPM推進の状況について

### R4年度～6年度の気付き

#### ～主に①予算編成でのロジックモデル等活用

- 予算提出のタイミングでは、ペーパーワークとなりがちでは。  
⇒夏場の部内検討からの活用を呼びかけ
- 作成しても効果が得られにくい、「向いていない事業」があるのではないか。  
⇒言語化・類型化したうえで、庁内で共有  
無理な作成は非推奨、徒労感のみの作業は回避

# 3.具体的な事例のご紹介

## モデル事業・伴走支援事例の一部（R6年度）

県庁内フリーアドレス  
導入の効果検証



※R5年度からのモデル事業

アートワークショップの  
効果検証



※R5年度からのモデル事業

国スポに向けた機運  
醸成に係る伴走支援



# 3.具体的な事例のご紹介

## ① 県庁内フリーアドレス導入の効果検証

### <事業概要>

業務内容や目的に合わせて、働く場所や時間を自由に選択できる働き方、Activity Based Working (アクティビティ・ベースド・ワーキング) の一環として、県庁内でフリーアドレス化を進めている。



### PLAN

以下のとおり、20階までのフロアを順次フリーアドレス化します。

年度	フリーアドレス化フロア数	割合
～2023年度(済み)	7/36フロア	(19%)
2024年度	14/36フロア	(39%)
2025年度 (目標:知事部局50%)	20/36フロア	(55%)
2026年度以降	30/36フロア	(83%)

※2025年度以降は、今後の実施状況を踏まえて調整します。

階数	部署	業務
27	企業局	企業局、企業管理者
26	人事部、労働部	監査、審判部
25	数部、デジタル推進部	新部、デジタル部
24	税務	税務、税務部
23	県庁内の施設、県庁口	教育、Youth部
22	下水、都市計画、整備	建築、住宅政策
21	契約課、建設企画	監理、建設企画
20	建設整備、施設管理	河川、砂防、自然環境
19	技術支援、情報政策	農政、ぐんまブランド
18	農村整備、畜産	農林畜産、文部、文化財保護
17	森林保安、林生	環境衛生、公衆衛生
16	環境保全、農林	環境政策、国土、林業
15	自然環境、環境整備	健康福祉、健康福祉
14	医療、介護福祉	経済、産業
13	監査指導、障害政策	観光、食品生活
12	生活に即ち、私学子育で、労働福祉、青少年	産業政策、地域企業
11	経済産業局、労働政策	観光観光、スポーツ、未来
10	地域文化、知事事務	労働企画
9	市町村、福祉、産業政策推進	税務、法務課
8	人事、労務	税務、人事
7	オペレーションルーム	危機、消防
6	総務	
5	HP	読書クラブ
4	サーバー室	サーバー室
3	群馬銀行	会計局

### 紹介のポイント

- 一般に効果があると考えられているがエビデンスが明らかでない取組。
- 段階的に進める事業であり、差の差分分析で効果を確認できる。
- 母集団が県職員であり、ほぼ全員を対象にアンケートを実施できる。

# 3.具体的な事例のご紹介

## ① 県庁内フリーアドレス導入の効果検証

### <実施内容>

※R5年度

#### 検証方法の設計

- ABWは誰にどんな行動変容を促したいのか将来像を設定。
- 上記をどんな指標で測れるか、アンケートの設問に落とし込む
- アンケートの取り方や、タイミングを設計。

※R6年度

#### 検証実施

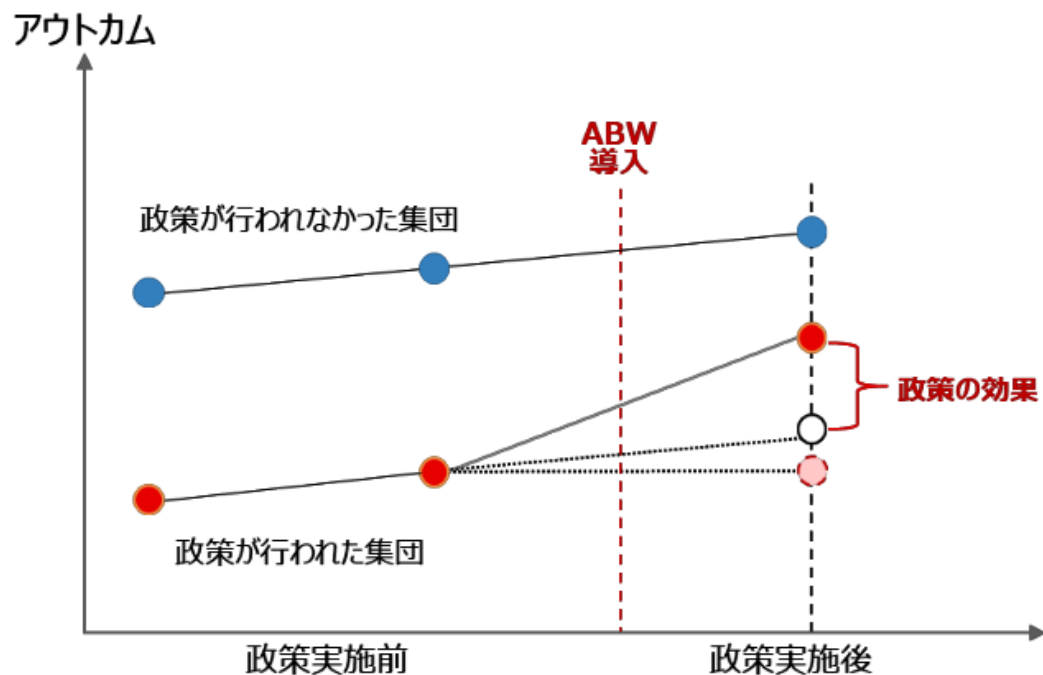
- 次スライドのとおり、差の差分分析により、効果を検証。
- 差の差分分析以外の分析も実施。
- 今後、フリーアドレス化を進めていくうえで、有益なヒントが得られた。

※R7年度

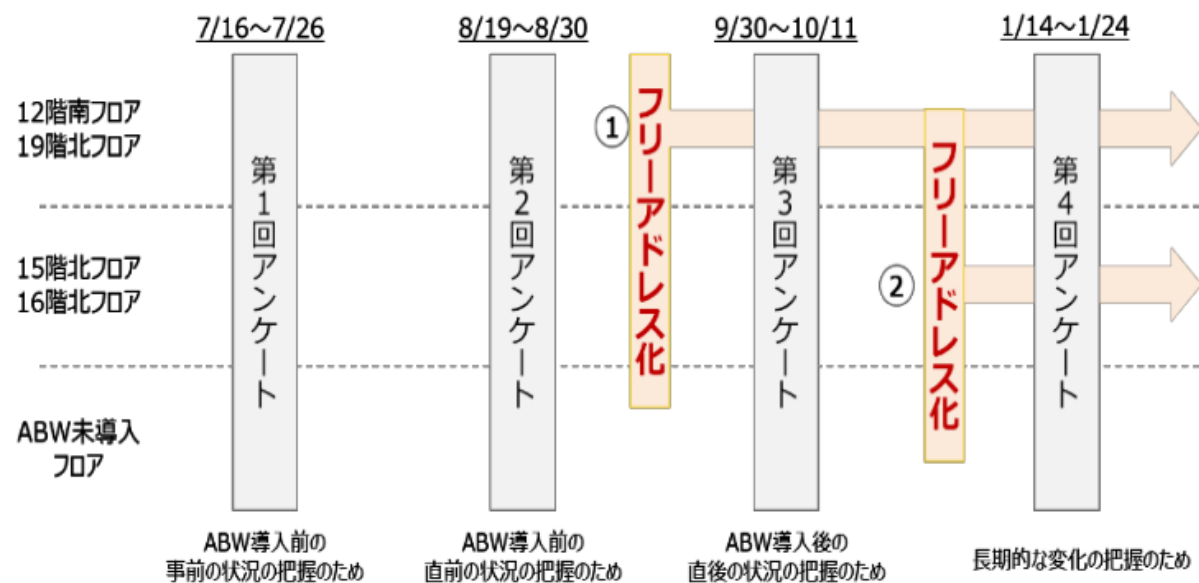
#### 事例を通じた周知

- 多くの県庁職員がアンケートに参加。
- 分析等、とりまとまった結果報告を庁内サイトに掲示し、アンケート調査が狙っていたことなど、事後的にお知らせ。EBPMの認知につなげる。

## DID(差の差分分析)

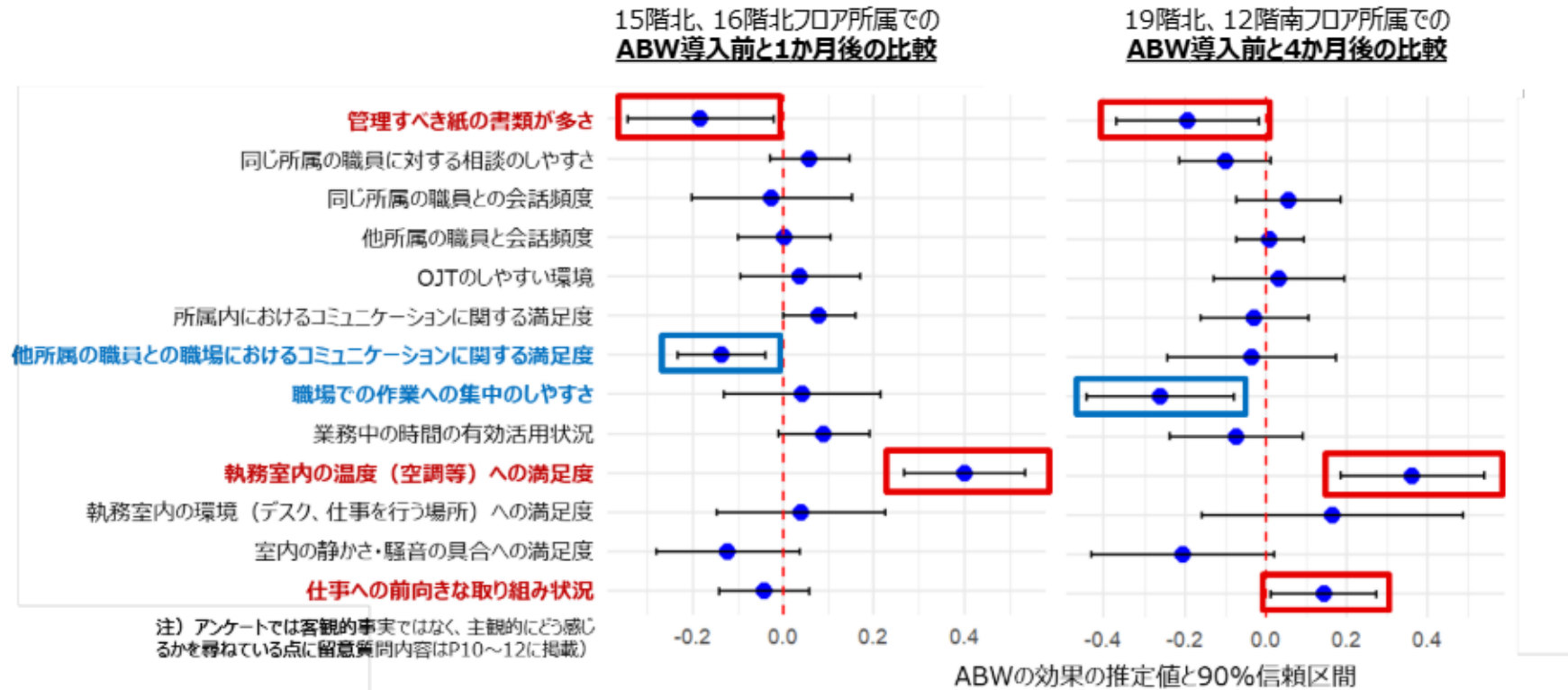


## アンケート実施のスケジュール



## 効果検証結果(アンケート全体の結果)

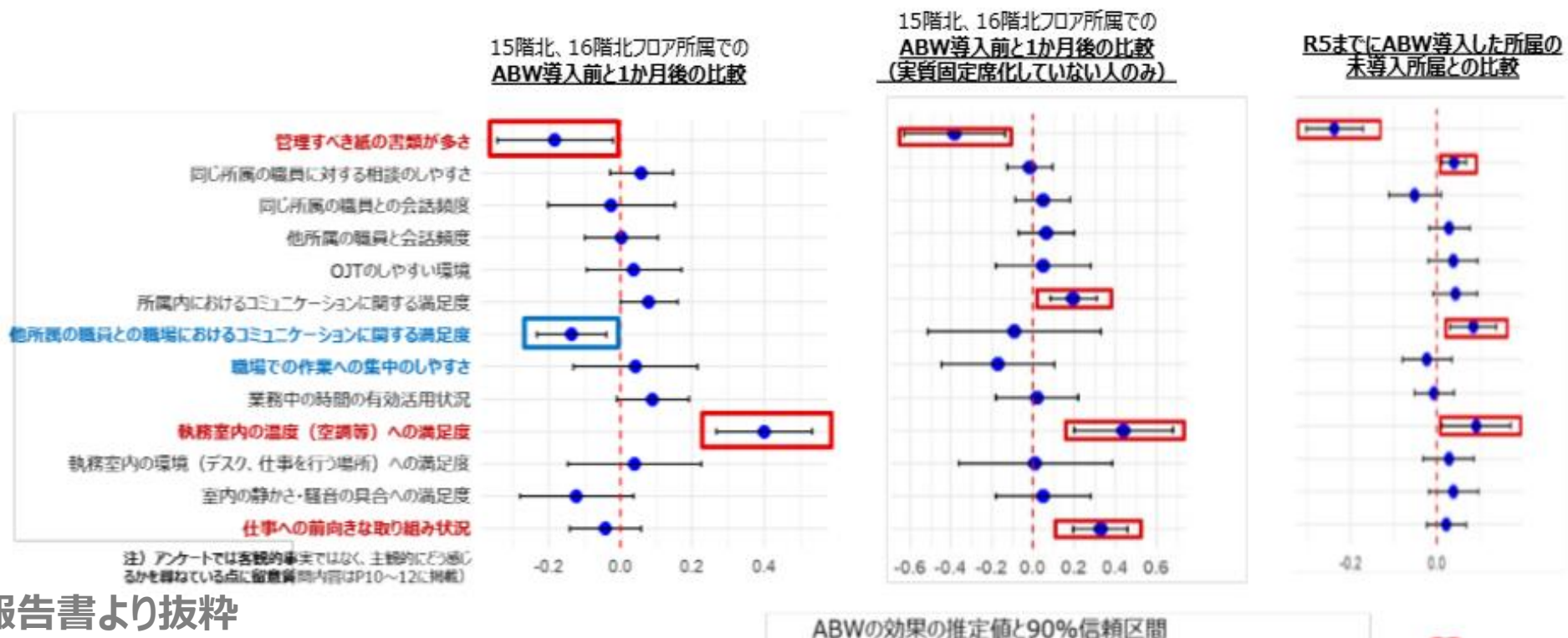
- **「管理すべき紙の書類の多さ」の減少**と、**「執務室内の温度（空調等）への満足度」の増加**が統計的有意に確認された。
- また、フリーアドレス導入の4カ月後では**「仕事への前向きな取り組み状況」の向上**も統計的有意に確認された。
- フリーアドレス化の効果として見込んでいたことの中には、**効果が確認できないものもあった。**



## 効果検証結果(属性によるクロス分析)

### ■ 属性を絞って深掘りした結果、次のことがわかった

- フリーアドレス化後に席移動の頻度が高い職員はフリーアドレス化のポジティブな影響が強い。  
→座席固定に対する対応とセットで行うことで、効果を高める可能性がある。
- フリーアドレス化導入は、短期的には一部の項目でネガティブな影響が出る可能性があるが、長期的にはポジティブな影響が出る可能性がある。



# 3.具体的な事例のご紹介

## ② 群馬パーセントフォーアート事業

### <事業概要>

アートの持つ様々な力を活用して、人々を惹きつける求心力を持つ群馬県の実現と県民の幸福度の向上を図るため、県予算の一定割合を、アート振興に充てる。全国初の条例「群馬パーセントフォーアート」推進条例を制定。

群馬  
パーセント  
フォーアート



### 紹介のポイント

- 自由度が高いなかでどんな事業を実施すればよいのか検討のためロジックツリーを作成。



# 3.具体的な事例のご紹介

## ② 群馬パーセントフォーアート事業

### <実施内容>

※R5年度

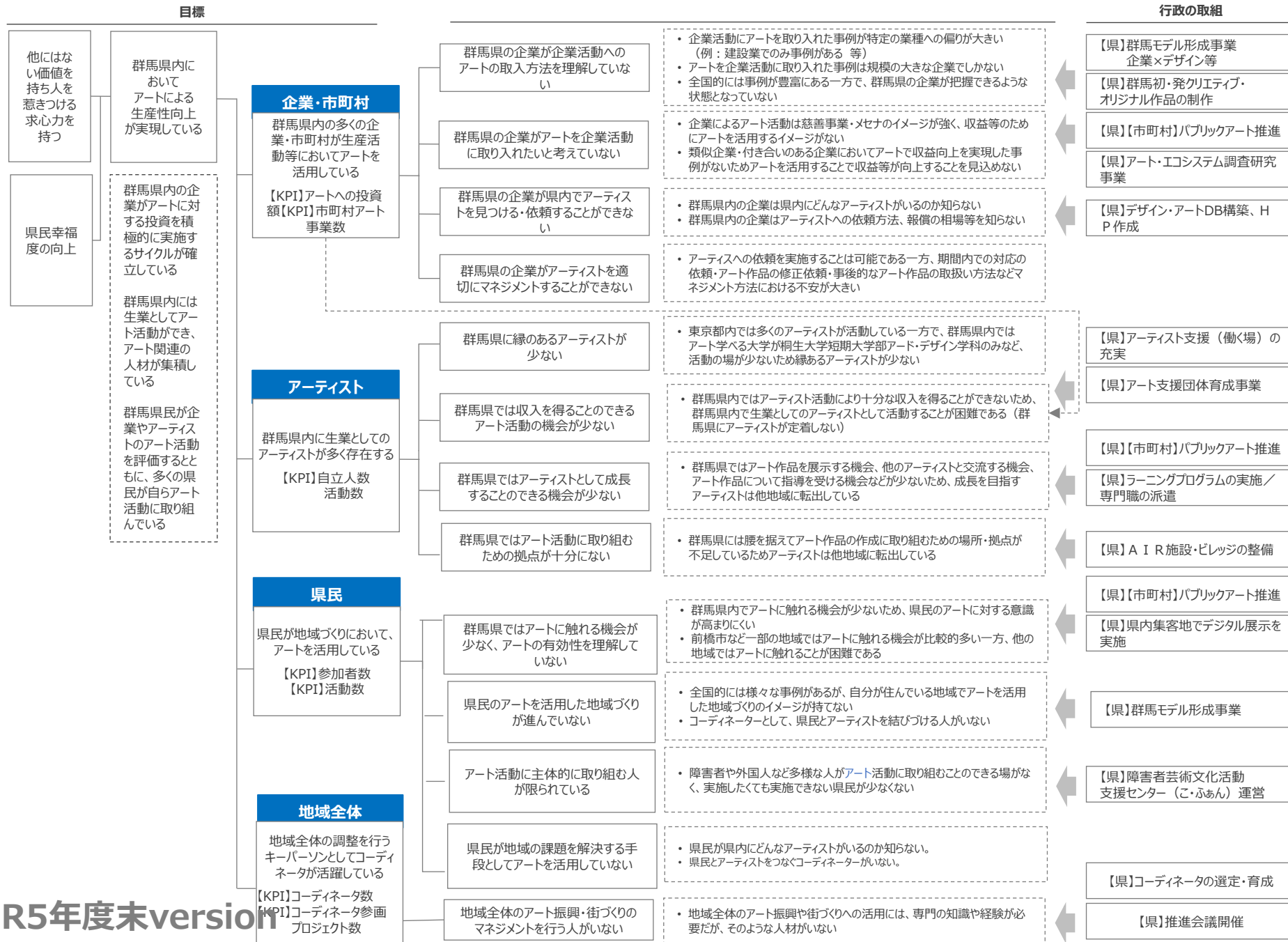
#### ロジックツリーによる整理

- 次スライドのとおり、パーセントフォーアート事業全体をロジックツリーで整理。
- 先行して事業化されていた打ち手もロジックの中に位置づけ。
- 特に将来像の設定に苦心。

※R6年度

#### アートワークショップの効果検証

- アートによる地域の魅力向上に向けた取組として、アートワークショップを計画。
- より効果の高い事業とするべく、効果検証を企画。
- 来年度事業に向けた気付き。



# 事業を起点としたロジックモデル

①目指すべき姿 ※数値等で具体的に記載

エンゲージメント指標 ●● (数値)

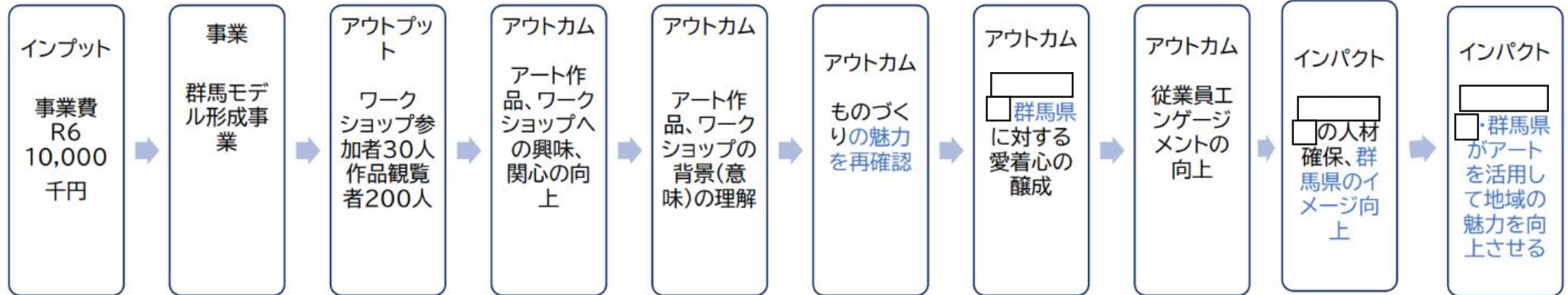
②現状 ※数値等で具体的に記載

エンゲージメント指標 ●● (数値)

③課題・政策目標(当該事業により解決すべき課題等) ※数値等で具体的に記載

アートによる従業員エンゲージメントの向上

④事業を起点とした効果(インパクト)までの過程の仮説(アウトカムはなるべく細かく階層分けすると詳細な分析が可能です。)



PICODA	対応策
<b>P</b> opulation (分析対象母集団)	□従業員
<b>I</b> ntervation (介入内容)	アートを活用したワークショップ及び作品展示
<b>C</b> omparison (比較対象)	ワークショップに参加していない□従業員
<b>O</b> utcome (アウトカム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員のマチベーションやアイデアの喚起に寄与するか</li> </ul>
<b>D</b> ata_アウトカム	アンケート調査に基づき把握する (Microsoft formsを使用) 回答者：15名 (n=15)
<b>A</b> nalytical method (分析方法)	前後データ (Pre-Post) 比較 自由記述におけるトピック分類

前後データ (Pre-Post) 比較

ワークショップ実施後「今後、アートに触れる機会を増やしたい」と回答した人が増加したことが確認できた。

ID	アートの伝える力 (前)	アートの伝える力 (後)	アートの伝える力 (変化)	アート活用の魅力 (前)	アート活用の魅力 (後)	アート活用の魅力 (変化)	地域活性化への役立ち (前)	地域活性化への役立ち (後)	地域活性化への役立ち (変化)	アートに触れる機会を増やしたい (前)	アートに触れる機会を増やしたい (後)	アートに触れる機会を増やしたい (変化)
1	5	4	-1	4	4	0	4	2	-2	4	4	0
2	5	5	0	5	5	0	5	5	0	4	5	1
3	4	4	0	4	4	0	4	4	0	4	5	1
4	4	4	0	4	4	0	5	5	0	4	4	0
5	4	4	0	4	4	0	4	4	0	4	4	0
6	5	5	0	4	5	1	4	5	1	4	5	1
7	5	5	0	5	5	0	5	5	0	5	5	0
8	5	5	0	5	5	0	5	5	0	5	5	0
9	4	4	0	5	5	0	2	2	0	3	4	1
10	4	5	1	4	4	0	4	4	0	5	4	-1
11	5	5	0	5	5	0	5	5	0	5	5	0
12	5	5	0	4	4	0	4	5	1	5	5	0
13	4	4	0	4	4	0	4	3	-1	4	4	0
14	4	4	0	5	5	0	5	5	0	5	5	0
15	4	4	0	5	4	-1	4	4	0	4	4	0

**POINT**

- 「今後、アートに触れる機会を増やしたい」と回答した人が複数増加
- ワークショップ及び作品展示を踏まえ、アートへの関心の醸成に寄与

ワークショップの感想 (自由記述)

感想内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>彫刻アートの取り組み紹介や今回の実施を得て、価値創造や人に感動 (ハットさせる) を与える発想の自由さや大胆さを感じて、自分の気持ちの中に『やってみちゃえば!』という勇気がなんだか湧いてきた感じです</li> <li>普段と違う、不確実性を愉しむイベントだったと思います。それはそれで逆に緊張しちゃいました。でもこれを愉しめるエンジニアでないと新しい発想が生まれないのではないかと、とも思いました。是非普段CADやCAE、Pythonに向かっているエンジニアにも体験してもらいたいなと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇〇〇が大切にする"安全"にはいろんな表現方法があることを気付かされた。実際に作業をしたことによって、モノ・音に愛着が湧きそう。普段関わることの少ない方々と一つになってコミュニケーションをとれる良い機会となった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アートという普段馴染みのないテーマであったこともあり、企画の目的とワークショップの繋がりが見えにくいところがあったもののワークショップは楽しめたと、やりながら真の目的を理解できました。今回、対象の企業が〇〇〇〇でアート作品と『命を守る』事を繋げるのをレコード盤と音で表現するといった部分が非常に斬新だったし、こういう切り口からであれば、今後沢山の企業や業態とコラボができる可能性を感じました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>普段は狙い通りのものを精度よく作ることを仕事としているので、自然発生するものにも意味を持たせてそれを楽しむという体験は貴重な機会だったと思います。正解がないものを作っていることにむしろ痒さも感じました(笑)</li> </ul>

# 3.具体的な事例のご紹介

## ③国スポに向けた機運醸成

### <事業概要>

令和 11（2029）年に国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会（以下、国スポ）に向けた県民の機運醸成。既存の「のぼり」「花いっぱい運動」等から変えていきたいという事業課の思いあり。



### 紹介のポイント

- 課題感は定まっている一方で、打ち手が具体化されていない段階の事業。
- 事業立案段階における整理にロジックツリーを活用。

# 3.具体的な事例のご紹介

## ③国スポに向けた機運醸成

### <実施内容>

#### ステークホルダーの棚卸し

- 関わる主体が多いなかで、「誰を、どうしたいか」という将来像を整理。
- 国スポとの関連・影響の強さを主体ごとに書き出す。

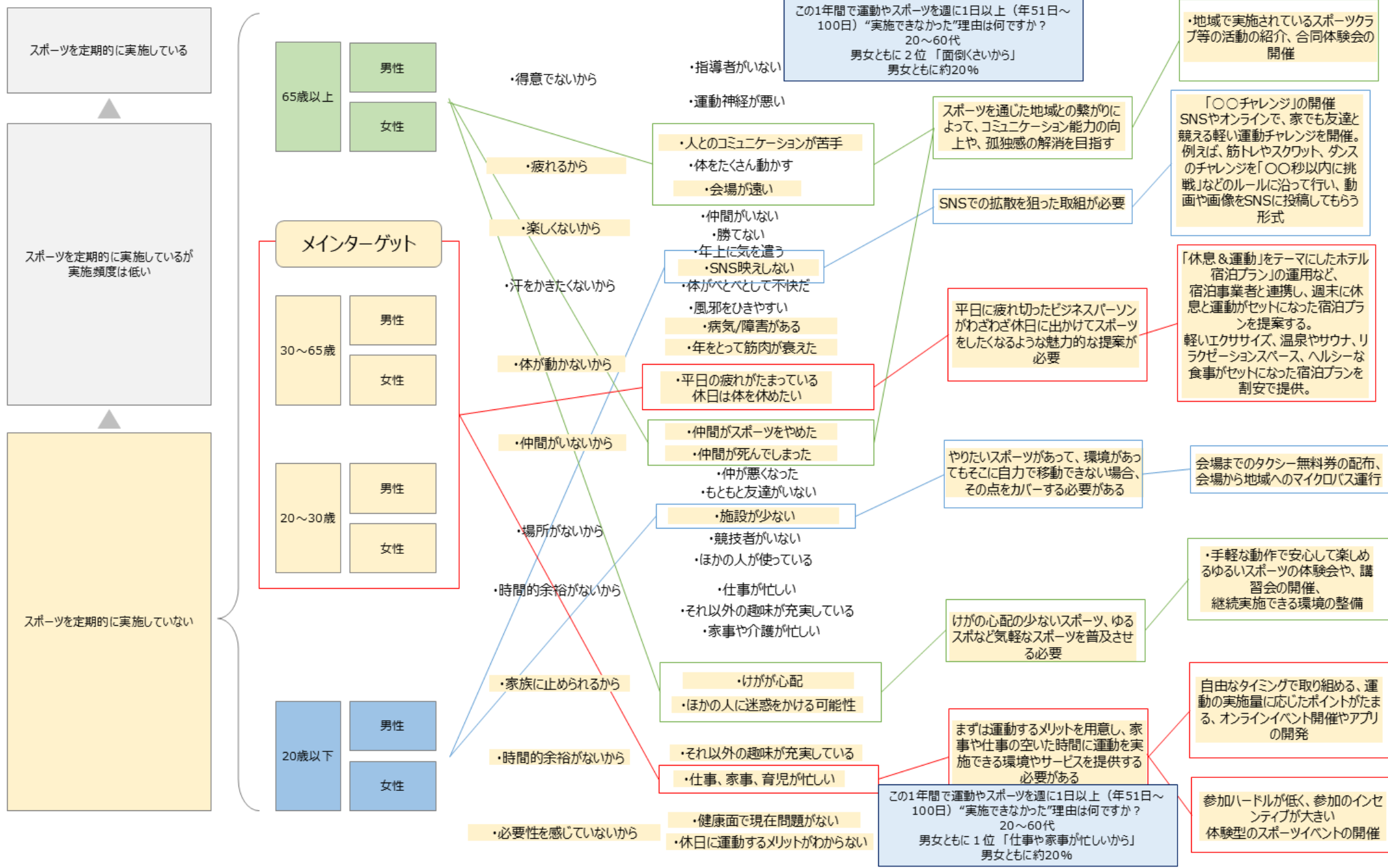
#### ロジックツリーによる整理

- 設定した3つの将来像「出場選手の競技力育成」、「県民のスポーツ実施機会増」、「県民のスポーツ観戦機会増」から、さらにターゲットを細分化し、ターゲットごとのボトルネック・解決手段を検討。

国スポに係るステークホルダーの棚卸表						
No.	Cat. 1	Cat. 2	組織・団体部署名	関与・影響度合い (高い1～3 低い)	国スポの準備・開催時に期待する役割	スポーツ政策推進時に期待する役割
	参加者	県民	一般来場者（県内）	1	式典参加、競技観戦	日常的なスポーツの実施、プロスポーツ観戦来場
	参加者	県民	選手	1	競技会参加	全国・国際大会での入賞、ジュニア・後継世代の育成
	参加者	県民	監督	1	競技会参加	全国・国際大会での入賞補助、ジュニア・後継世代の育成
	参加者	県民	マネージャー	2	競技会参加	全国・国際大会での入賞補助、ジュニア・後継世代の育成
	参加者	県民	ボランティア参加者	1	運営協力、選手支援	大会後のボランティア活動の継続、拡大、スポーツイベントの実施
	参加者	県民	関連イベントの参加者	1	国スポ・全スポの開催記念イベントに参加	スポーツや運動を日常生活に取り入れる、地域の人たちとの交流
	参加者	県民以外	一般来場者（県外）	2	式典参加、競技観戦、イベント参加	来県を通じて群馬の魅力を知る、観光消費、プロスポーツ観戦来場
	参加者	県民以外	皇室	3	競技観戦、地域状況視察	来県による地域振興
	支援者	学校	先生（監督以外）	2	大会についての講義、授業等の実施、ボランティア	地域クラブ活動・運動部活動・体育指導の充実
	支援者	学校	生徒（選手以外）	2	都道府県応援団、ボランティア、式典パフォーマンス	スポーツ活動の定着化、競技力向上、ボランティア参加の継続
	支援者	学校	PTA	2	自身の大会参加、子ども参加の引率や補助	スポーツ実施、子どものスポーツ実施の補助
	支援者	警察	警察	2	会場警備、周辺交通規制、皇室警護	-
	支援者	自衛隊	陸自	3	河川、湖沼での実施の際の安全確保、開会式でのブルーインパルス飛行	-
	支援者	県内病院・クリニック	通常の病院	3	選手負傷時の医療行為	-
	支援者	県内病院・クリニック	スポーツ・アニマルドクター	2	各会場での選手/動物の健康サポート	-
	支援者	県内事業者	飲食店	2	会場内でのブース出店、キッチンカー、お弁当	-
	支援者	県内事業者	飲食料メーカー	2	お土産、記念品の製作	-
	支援者	県内事業者	広告代理店	1	歓迎装飾制作、記念映像の作成	-
	支援者	県内事業者	建設業	1	会場施設、付帯施設の工事	-
	支援者	県内事業者	旅行	1	大会関係者の宿泊、交通の手配	-
	支援者	県内事業者	宿泊	1	大会関係者の宿泊先、食事提供	-
	支援者	県内事業者	運輸・鉄道	2	大会関係者の輸送提供	-
	支援者	障害者支援団体	知的障害者支援団体	1	大会運営の支援、障害のある来場者の支援など	大会後の支援活動の継続、拡大、ボランティア活動の実施
	支援者	障害者支援団体	身体障害者支援団体	1	大会運営の支援、障害のある来場者の支援など	大会後の支援活動の継続、拡大、ボランティア活動の実施
	支援者	障害者支援団体	精神障害者支援団体	1	大会運営の支援、障害のある来場者の支援など	大会後の支援活動の継続、拡大、ボランティア活動の実施
	運営者	県内公共団体	県（準備委員会含む）	1	大会全体の開催準備、大会運営、式典運営	大会後のスポーツ振興事業の継続、長期目標に向けたモニタリング
	運営者	県内公共団体	教育委員会	1	学校と県・市町村準備委員会との連携・調整	大会後の学校でのスポーツ活動の支援
	運営者	県内公共団体	市町村	2	各競技会開催準備、競技会運営、その他イベント実施	大会後の地域スポーツ振興事業の継続
	運営者	県外公共団体	日本スポーツ協会/パラス	1	大会全体の開催準備	国内全体のスポーツ（全体）振興
	運営者	県外公共団体	国土交通省	2	河川、道路整備	-
	運営者	県外公共団体	文部科学省	2	大会全体の開催準備	国内全体のスポーツ（全体）振興
	運営者	県外公共団体	宮内庁	3	皇室対応に向けた調整	-
	運営者	県内競技団体	県スポーツ協会/パラスポ	1	大会全体の開催準備、大会運営、各競技会運営	一般県民のスポーツ実施支援、競技力向上のための施策、施設の維持・管理
	運営者	県内競技団体	各競技の県競技団体	1	競技力向上、各競技会の運営	一般県民のスポーツ実施支援、競技力向上のための施策、施設の維持・管理
	運営者	県内競技団体	地域スポーツクラブ	2	競技力向上、各競技会の運営補助	一般県民のスポーツ実施支援、競技力向上のための施策、施設の維持・管理
	運営者	県外競技団体	各競技 中央競技団体	2	大会運営補助、各競技会運営補助	国内全体のスポーツ（各競技）振興

# 群馬県民のスポーツ実施率の向上 全体版

## ターゲットが課題状態にある要因 要因に対する解決手段



# 4. 今後の展望について

## 政策プロセスのシステム化

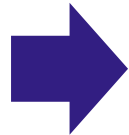
- ① 予算編成でのロジックモデル等活用



- 査定側（財政課）においてEBPMの観点でロジック等を指摘する流れを加速させる。
- 政策・施策単位でのロジックツリー等の活用も検討。

## 環境整備

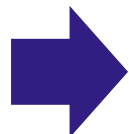
- ② 基盤サイト
- ③ フォローアップ体制
- ④ モデル事業構築



- 各部局財務主任によるフォローアップ体制も強化。
- 様々なステージでの伴走案件等を増やすことで、因果推論の手法で効果検証ができる事業も増やす。

## 人材育成

- ⑤ 職員研修



- 職員の標準能力として、使いたいときにしっかり使えるよう、階層別の職員研修など、職員研修で受講する項目の一つとして追加する。